

選別標本を利用した畳表品質（いぐさの揃い）の改善

高品質畳表に求められる茎の太さの整否（ばらつき、C.V.）は9%未満であり、その指標は、100本程度の茎を束にした切断面により判断できる。このことにより製作した標本は、製織前の茎の選り出し指標として有効である。

農業研究センターい業研究所加工部（担当者：澤田倫平）

研究のねらい

本県では、安価な中国産畳表の輸入増加に伴う価格低迷が続いており、その解決策の一つである高品質化への取り組みが急務となっている。

そこで、畳表の品質に大きな影響を及ぼす太さの揃いについて、高品質畳表製織に求められる揃いの指標を明らかにして、その生産拡大を図る。

研究の成果

- 1 高品質畳表に求められる茎の太さの整否（C.V.）は9%未満であり、それに該当する茎の長さは、栽培条件等により異なる。
- 2 茎の太さの揃いを切断面で観察することにより、その揃いの良否が判断できる。
- 3 標本を目標とした選り出しは、任意の選り出しと比較して、高品質畳表の生産が可能である。
- 4 標本の使用方法
(1) 長さ選別したいぐさの各々100本を、根元から50cmの箇所を切断する。
(2) それと標本を比較して、太さの揃いの良否を判断する。
(3) 太さの揃いが標本より悪い場合には、それが標本と同程度になるまで選り出し、選り出した太い及び細いぐさの割合を基にして、実際の製織作業で選り出しを行う。

以上のことから、標本は高品質畳表加工への啓発及び製織時の選り出し量の目標として活用できる。

普及上の留意点

- 1 短いぐさ程、揃いは悪くなるので、選り出しには注意を要する。

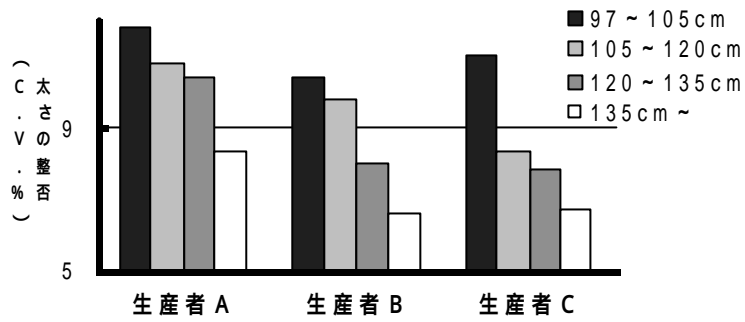


図1 選別長さ毎の太さの整否 (CV%、注、平成12年早刈生産者栽培、岡山3号)

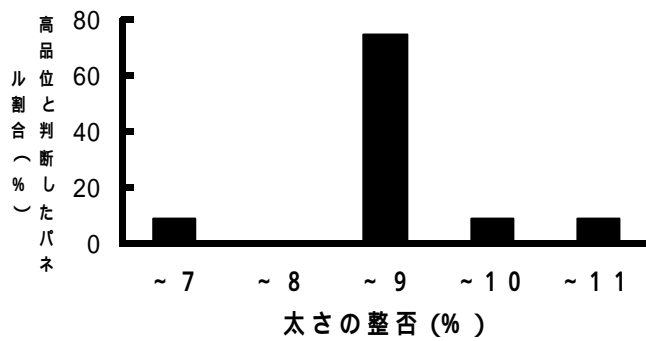


図2 高品位と判断される太さの整否の限界値

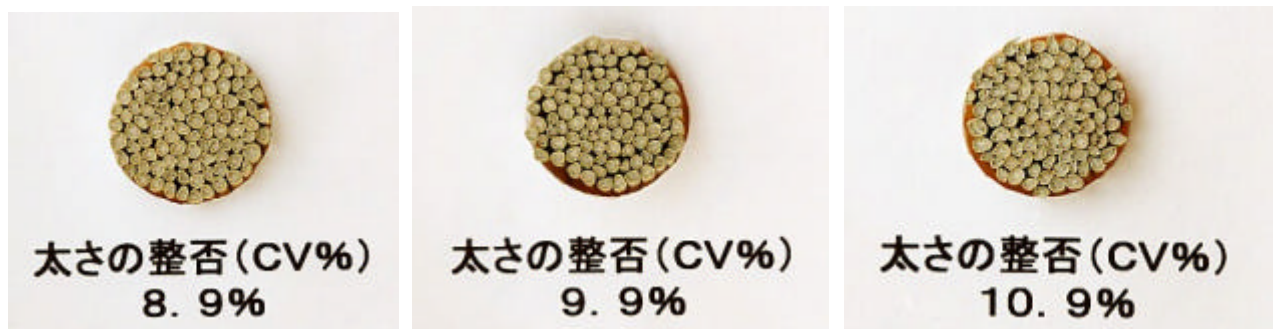


図3 いぐさの切断面

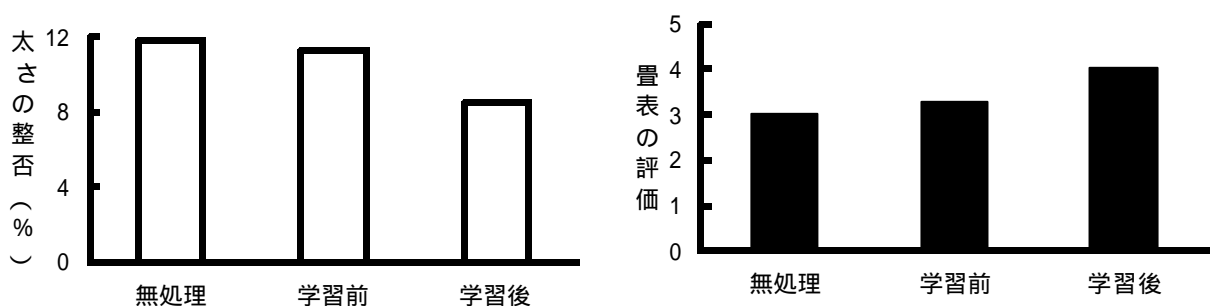


図4 標本の学習効果

- (注) 1. 被験者: 4名
 2. "無処理": 選り出しが行われていないいぐさ。
 "学習前": 被験者が通常行っている方法(任意)で選り出したいぐさ。
 "学習後": 被験者が標本を参考に選り出したいぐさ。
 3. 豊表の評価: 茎の太さの揃い(不良1 - 良5)、無処理を対照、パネル数 5名